

歴史 貞山運河 セミナー

長大な流れの貞山運河にあって、仙台市の沿岸部を貫く

「新堀(9・5キロ)」は最もなじみの深い水路と言えましょう。

蒲生や新浜、海水浴場のある荒浜、井土浜、藤塚を結んでいます

新堀の完成は明治初期と比較的、近年のことでした。

どんな時代であり、何の目的に使われたのでしょうか。

2人の研究者に謎をひもといてもらいます。

現状報告の部

東日本大震災から15年。津波の直撃を受けてから再生しつつあるみやぎの運河群のいまを、ドローン映像で紹介します。

熊谷 真由(くまたに まゆ)

ドローン空撮家

大和田 雅人(おおわだ まさと)

貞山運河ネット副会長、フリージャーナリスト

講演の部

1. 近代の幕開け 仙台近辺の 交通網の姿

菅野 正道(かんの まさみち)

郷土史家、元仙台市史編さん室長

明治維新後、近代化が急速に進展する中で、交通網の整備・再編は大きな社会課題となり、官民両方のさまざまなアプローチがありました。新堀を含む運河群の整備が進んだ時代、仙台近辺でどのような取り組みがあったのかを掘り起こします。

2. 新堀の開削と その時代

畑井 洋樹(はたい ひろき)

仙台市歴史民俗資料館学芸室長

近代を迎えて仙台湾沿岸は変わり始めました。仙台藩の庇護を失い、勢いの陰る塩竈、「御船入堀」を活用してにぎわう蒲生、そして新たな発展を求めて始まった「新堀」の開削に人々が思い描いた地域の姿を探ります。

日時

2026 **2.21** 土

開場 13:00

開始 13:30

終了(予定) 16:00

会場

東北福祉大学・仙台駅東口
キャンパス 51 教室 (300 席)

仙台市宮城野区榴岡 2 丁目 5-26

アクセス

JR「仙台駅」徒歩3分/地下鉄東西線「宮城野通駅」徒歩3分
ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

参加費

800 円

※資料代。
参加費は当日受付でお支払いください。

定員

300 名

※定員に達し次第
申し込みを締め切ります。

事前申込必須 ※申込方法は裏面をご確認ください



主催

一般社団法人 貞山運河ネット TEL.022-262-2322

Mail teizanunga@p-office.co.jp http://www.teizanunga.net



講師プロフィール

菅野正道

1965年仙台市生まれ。東北大学大学院修士課程修了。仙台市博物館で市史編さん室長を務めた。宮城、山形県など東北の戦国史や城郭のほか、伊達政宗をはじめとする仙台藩の歴代藩主と家臣団、まちづくりに精通し、講演を多数こなす。主な著書に『伊達の国の物語』、『せんだい歴史の窓』、『イグネのある村へ』などがある。2021年に貞山運河沿いの集落の歩みをまとめた『海辺のふるさと』を執筆。河北新報に「せんだい故事祭菜」を連載。名取市の市史編さん委員を務める。

畑井洋樹

1972年富山市生まれ。1992年の大学進学に伴い、仙台市に在住する。東北大学大学院修士課程修了。2006年から仙台市歴史民俗資料館に勤務する。現在は学芸室長。同館での企画展「昭和の仙台」、「仙台駄菓子と石橋屋」、「なつかし仙台5」、「仙台の災害」などを手掛けたほか、『仙台市史』特別編9（地域誌）では高砂地区の執筆を担当し、七北田川下流域や蒲生の歩みに通じている。

大和田雅人

話題提供者

熊谷真由

1960年仙台市生まれ。フリージャーナリスト。仙台の水環境やまちづくりについて取材執筆を行う。主な著書に『貞山堀に風そよぐ』、『四ツ谷用水 光と影 消えた遺産を追う』、『宮城県美術館 誕生から移転断念まで』など。月刊情報誌らしくに「せんだいは水の都」を連載している。

1990年仙台市生まれ。千葉県船橋市在住。千葉と仙台の2拠点を往復しながらドローン空撮を中心に活動している。2024年4月に「ドローン・アーキビスト」として開業した。空からの視点で、地域・人・風景を丁寧に残し、次世代へつなぐ映像を制作している

お申し込み方法



右記二次元コードを読み込んでいただき、必要事項をご記入のうえご送信ください。



下記のお申込書に必要事項をご記入いただき、

FAX022-266-9418
(株)プランニング・オフィス社内)

までご送信ください。



ご不明な点がございましたら
右記メールアドレスまでご連絡ください。

teizanunga@p-office.co.jp

FAX用 貞山運河「歴史セミナー」参加申込書

ふりがな			
氏名			
電話番号	— —	FAX番号	— —
	※連絡のとれる番号をご記入ください。		
メールアドレス			
住所	〒		